

高まる需要に対応

当JAは2月10日、本店で「青天の霹靂」栽培講習会を開きました。生産者約60人が出席し、生産性強化に向けた栽培方法と販売状況を確認しました。当JA管内の令和2年産は、287経営体（前年比11減）で821畝（同23畝増）の作付けを予定します。

元年産青天の霹靂は、出荷予約数量に対し、実績数量が99.8%（平成30年83.3%）、出荷基準達成率は99.3%（平成30年94.4%）となりました。中南地域県民局の担当者が生産性を向上させるための栽培方法を説明。「生産性向上にはマニュアルに沿った栽培管理が重要。栄養診断基準に基づいた追肥と登熟向上のための適切な水管理を行ってほしい」と呼び掛けました。販売状況について全農あおもりの担当者が説明し「青天の霹靂の需要はとても高い。需要見込量に応えられるよう作付面積の拡大を検討してほしい」と話しました。

同品種は、玄米タンパク含有率（水分15%換算）で6.4%以下の出荷基準があります。確実に集荷できるよう、玄米タンパク含有率（同）で6.0%以下、10 μ 収量9俵の生産目標を掲げ、施肥管理や基準栽培の徹底を呼び掛けました。

～青天の霹靂栽培講習会～



「青天の霹靂」の栽培を確認する生産者



初心者に剪定の基礎を説明する大平さん



剪定について学ぶ女性生産者

剪定の技術と知識を高めよう

～初心者・女性生産者向けの講習会～

当JAでは、剪定作業の初心者や女性生産者を対象としたりんごの講習会を開いています。

黒石基幹グリーンセンターは2月14日、同市の大平一仁さんの園地で初心者や女性生産者を対象とした剪定講習会を開き、約20人が参加しました。

園主の大平さんが講師を務め、剪定作業の基礎知識と実技について指導。作業の手順やポイント、枝の性質、収量を安定させる方法などについて説明し、参加者は熱心に学びました。

また、28日には尾上基幹グリーンセンターと石川基幹グリーンセンターが合同で女性生産者を対象とした講習会を平川市で開き、両地区の生産者約30人が参加しました。

参加した生産者は「剪定作業の基礎について学ぶことができ、とても勉強になった。講習会で学んだことを生かして、今後剪定作業を行っていきたい」と話しました。